

令和6年度 日野市立夢が丘小学校経営重点計画				自己評価シート				令和7年3月公表							
★学校教育目標				夢に向かって やさしく かしこく たくましく				★重点計画の概要							
★目指す学校像（ビジョン）								『保護者、地域から信頼され、安心して子供をあずけることができる学校』							
【目指す児童・生徒像】				○集団 ⇒集団の中で自分がどうあるべきかを考え、行動できる児童 ○探求 ⇒自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる児童 ○協働 ⇒人との関わりや地域を大切にする児童				① 確かな学力の定着(授業が楽しい学校を目指して) ② 豊かな人間性の育成(凡事徹底・組織的な取組を目指して) ③ 学校を開き、情報の共有化に努める学校(家庭、地域社会と連携・協力して)							
【目指す学校像】				○児童一人一人が生き生きと学び、笑顔輝く学校 ○教職員・児童が生き生きと日々の教育実践に励む学校 ○保護者・地域が信頼をよせ、地域と共に歩む学校											
【目指す教師像】				○児童一人一人を大切にし、児童理解と指導力を進んで学ぶ教師 ○組織(チーム夢が丘小)として協働する教師											
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策						
				評価点	取組指標		評価点			成果指標					
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	学びの羅針盤・創造 学びを児童主体に移譲し、自らの意思と他者の考えを取り入れ、協働して、より自発的に行動できる力を育む	児童が自主的・主体的に活動できる様々な場を設定し、自ら考え、判断し、表現できる力を身に付けられるようにする	・特色ある学校づくりを推進するため、児童がもっている力を発揮し、他者と協力し、学校行事への参画・学校の決まりの策定・たてわり班活動の充実など、自発的に活動できる指導・支援を行う	3	4	児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が90%以上		3	4	「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が90%以上		評議員回答：3.75 学校行事やたてわり班活動を通して、自分の役割を見つけ、それを果たしていくことは、自信にもつながり、とても重要だと思う。そのような体験ができる場にしてほしい。挨拶は自らではない時もあるが、声を掛ければ返してくれる。先生が児童のことを大切にし、学校全体で教育活動に取り組まれている様子が伺え、校内に入った時に心地良さを感じる。	児童アンケートでは他者を考えた行動や自主的に活動する意識について肯定的回答が80%以上と高い。たてわり班活動を中心に、児童が自ら考え行動する機会を教育活動の様々な場面で設定したことにより、高学年児童は相手の立場を尊重したり班をまとめたりする難しさを感じ取り、企画立案の大切さを学ぶ機会となった。今後もしリーダースhipがとれる高学年児童の育成に繋げていく。		
	教職員の挑戦 楽しくわかる授業を創造し、主体的対話的に深く学ぶ授業を展開する	・ねらいを明確にした意図的・計画的な授業を展開する ・学習者用端末を効率的に活用し、一人一人の確かな学力の向上を図る	・児童の実態に即した教材研究を行い、身に付けさせたい力と学習のゴール地点を明確にした授業を行う ・教員の専門性を生かした授業交換・単元交換授業を実施する ・学習者用端末やI C T機器を授業に積極的に活用し、できるわかる授業を展開する		3	3	児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が80%以上		4	3	「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が80%以上			評議員回答：3.83 交換授業は児童にとって刺激になり学習意欲の高まりにも一役買っているように思う。知的好奇心を満たしてくれる楽しい授業づくりをお願いしたい。できるようになったことが増えたと感じている児童が多いのは嬉しいことである。各先生方の指導についての努力はとても評価できるものと受け取っている。	
2						児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が70%以上				2	「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が70%以上				
1						児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が70%未満					1				「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が70%未満
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	探究的な深い学び 自ら課題を設定し、興味関心を高め、解決しようとする力をさらに次への課題に結び付けていく力を育む	自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる指導の工夫を取り入れた授業を展開する	・学ぶ意欲を育むため、個に応じた学習課題を設定し、興味関心を高めさせる ・学習者用端末を利活用し、授業内だけでなく家庭学習においても、課題追求できる場面を設定する	3	4	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が90%以上		4	4	「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が90%以上		評議員回答：3.5 ICT活用、パソコン活用も当たり前になってきた感があるが、自ら学習課題を設定するところまではいっていないという印象。そこがクリアできれば家庭学習もパソコンを活用した基礎学習も自然と取り組めるのかなと思う。自らがなかなか難しい。	学習者用端末の扱いについては、児童の得手不得手があるので、必ずしも一斉で取り組むことが難しい場面がある。多教科に渡って活用を求められることがあるが、「いつ」「何のために」を事前にしっかりと計画して行うことが不可欠である。調べ学習で用いることだけでなく、インストールされているアプリを有効的に活用できる教員の育成も不可欠である。		
	居場所・活躍 異年齢集団による活動を実施し、互いを思いやる心で協力して活動しようとする意欲、学校の一員としての所属感・連帯感を育てる	高学年を中心に、「何を」「なぜ」「どのようにしたいのか」を問わせながら、企画力・判断力・創造力・表現力を向上させる	・異学年間の交流を深めるために、たてわり班活動を中心に、全校遠足、月1回のプロジェクトタイムや体力アップタイムなどの活動を設定する		3	3	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が80%以上		3	3	「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が80%以上			評議員回答：3.67 たてわり班活動などの異年齢交流を通して学ぶことはとても多い。高学年の姿を見て将来像を思い描くことは目標にもなる。ロング中休みも先生と一緒に遊ぶ姿が楽しそうだし、体力づくりにもなっていると思う。	
2						学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が70%以上				2	「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が70%以上				
1						学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が70%未満					1				「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が70%未満
社会と未来に関き、みんなでつくる	対話・協働 集団活動の中で、自分の役割や自分のよさを発揮し、話し合い活動を通して、よりよい人間関係や学校生活を築こうとする態度を育てる	校内研究を通して、話合う場面を意図的に構成した学びの工夫を取り入れた授業を展開する	・児童自らが学びを深めていけるようにするために、特別活動(話し合い活動)を基本に、他教科でも自らの考えを伝え、意見を交わし、まとめたり再考したりする活動を取り入れた授業を展開する	3	4	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が90%以上		3	4	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が90%以上		評議員回答：3.67 学校という集団生活の中で、お互いに気持ちよく学び、生活するためには話し合い、理解し合うことが重要。何を言っても受け止めてもらえない安心感をもって自由に意見交換できる雰囲気づくりをお願いしたい。	校内研究では児童自らが学びを深めていけるような授業展開を目指してきた。主体的で対話的な学びを実現していくための視点を、授業研究会の講師から指導していただいたことで、話し合う場面や発問の工夫を取り入れた授業が行われ、教員の指導力の向上に繋がってきている。今後も授業力向上に向け、授業研究に取り組んでいく。		
	多様な参画 保護者、地域、近隣施設や異校種などとの交流を通して、自然や地域を愛する豊かな心、思いやりの心を育てる	・幼保小中、七生特別支援学校、地域施設と連携し、交流を生かしたインクルージョン教育の推進を図る ・学校支援コーディネーターと協働し、児童のもつ様々な興味関心を引き出す企画を実施する ・学校からの情報を適宜発信し、本校の教育活動について理解を促進する	・多様性の理解を深めるために、異校種との交流授業や地域を利活用した授業を全ての学年で設定する ・教育活動の充実を図るため、学校行事、漢字検定、体力テスト、学習での補助などの活動支援を依頼する ・学校の様子を知らせ、教育活動を理解してもらうために、ホームページ、C4th Home & Schoolを活用し、積極的に発信する		3	3	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が80%以上		4	3	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が80%以上			評議員回答：3.87 近隣の学校との交流学习の様子を含め、お便りやホームページで発信してもらえるので、様子がわかって有難い。児童の輝く姿や笑顔に出逢える機会(学校行事や学校公開など)も学期毎に設けられていてよいと思う。	
2						話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が70%以上				2	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が70%以上				
1						話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が70%未満					1				「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が70%未満
					4	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が90%以上		4	4	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が90%以上					
					3	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が80%以上			3	3	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が80%以上				
					2	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が70%以上				2	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が70%以上				
					1	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が70%未満					1		「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が70%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。